

事業名「いじめ防止サミット in 北九州」

テーマ「いじめを生まない携帯電話やスマートフォンの使い方やルールについて」

実施主体：福岡県北九州市教育委員会

《取組の概要》

- 北九州市では、9月をいじめ撲滅強化月間としており、「いじめ撲滅」に向けて取り組む全市共通のテーマを、8月の当サミットにおいて、市内国公立全小・中学校（194校）代表児童生徒による話し合いにより決定する。決定した内容については、代表児童生徒がそれぞれの学校にもち帰り、内容を各校の児童生徒に伝えることで、「いじめ撲滅」に向けて、市内児童生徒が一つになった取組を進めている。

1 本事業に取り組んだ理由（課題を含めて）

- いじめの問題に対して、北九州市では、平成18年より毎年サミット、フォーラムを開催するなど、継続して取り組んできた。平成23年の大津いじめ事件を受け、平成25年に市内全小中学校代表児童生徒参加によるサミットを開催した。近年、インターネット上での誹謗中傷などのいじめの問題は、全国的に後を絶たず、本市においてもより一層指導の充実を図る必要がある。そこで、ネットいじめをはじめとする全てのいじめをなくすため、本市では市内全ての学校が同じ目的意識をもって、子どもたちが主体的にいじめの問題について考え、いじめ撲滅への意識の高揚を図ることを目的として、本事業を開催している。本年度は、携帯電話やスマートフォンなどの使用によるネットトラブルを協議の柱として、本事業に取り組んだ。

2 実施スケジュール

- 第1回実行委員会（4月23日）
- 第2回実行委員会（5月14日）
- 第3回実行委員会（7月25日）
- いじめ防止サミット in 北九州（8月11日・12日）
 - ・1日目 グループ会議、全体検討会
 - ・2日目 全体会議（各グループからの発表・いじめ撲滅スローガンの発表）



【グループ会議の報告】

3 事業展開

- 8月11日（1日目）
 - ・ 今年度は、サミットに市立130校の小学校と62校の中学校、福岡教育大学附属小倉小・中学校から各3名ずつ、約600名の児童生徒が参加。
 - ・ 小学校19グループ、中学校9グループに分かれて「昨年度はいじめ撲滅の取組を振り返り、今年度どのようにつなげていくか」、ケータイ・スマホ夜10時オフ等の「いじめを生まない携帯電話やスマートフォンの使い方やルール」について小集団での協議。
 - ・ その後の全体検討会で、各グループの代表者がグループ会議の結果を発表し、コーディネーターが全グループの意見を集約して今年度の取組を提案し、全会一致で採択。
- 8月12日（2日目）
 - ・ 代表児童生徒、教員、保護者など約1500名の参加と、文部科学副大臣他、多くの来賓を迎え、全体会議を開催。
 - ・ いじめの問題について、特色ある取組をしている小学校、中学校の実践発表と特別支援学校の取組、さらに福岡市のいじめ撲滅の取組を紹介。
 - ・ 「いじめ撲滅スローガン」「いじめ撲滅宣言」と「いじめを生まない携帯電話やスマートフォンの使い方やルール」を会場全体で唱和し、いじめ撲滅に向けて北九州市全体で取り組むことを宣誓。

4 事業の成果(効果)

(採択された今年度の取組)

①昨年度の取組を継続する。

- いじめ撲滅スローガン「なくそういじめ！ふやそう笑顔！」
- いじめ撲滅宣言
 - ・ 私たちは、自分やみんなの心と体を気にかけて大切にします。
 - ・ 私たちは、あなたの悲しみを自分の悲しみとして受け止めます。
 - ・ 私たちは、いじめを許さず、仲間と一緒に考えます。
 - ・ 私たちは、自分ができることから実行し、いじめのない北九州市をめざします。
- クローバーキャンペーン
 - ・ いじめをしない意思を示すためのシール、全児童生徒に配布
- いじめ撲滅啓発ポスターの作成



【クローバーシール】



【啓発ポスター】

②いじめを生まない携帯電話やスマートフォンの使い方やルールについて

- ・ ケータイ・スマホ 夜10時オフ
- ・ 相手を傷つけることは使わない
- ・ 困ったときは大人に相談する

成果としては、携帯電話の使用時間やメール文への配慮、困ったときの対応といった、いじめの問題だけではないネットトラブル・ネット依存に対する児童生徒の意識を高めることにつながった。

5 事業を成功させるためのポイント

○ 実行委員会による企画・運営

- ・ サミットの開催においては、子どもたちが主体的にいじめの問題を考えることが重要である。

そのために、市立小中学校の各区代表児童生徒14名の実行委員を選出して、会議の中で話し合いの柱を考えたり、サミットの中での役割を確認したりする会議を開催した。

- ① 第1回実行委員会 昨年度のいじめ防止サミットの振り返り
- ② 第2回実行委員会 サミットにおける協議内容の決定と各校への周知
- ③ 第3回実行委員会 サミット当日の仕事の内容の確認と分担

○ 広報活動

- ・ 9月の始業式に、校長が全校児童生徒にサミットの報告を行った。また、サミットに参加した代表児童生徒も集会行事等でサミットの報告を行った。
- ・ サミットを編集したDVDを全校配付し、児童生徒だけでなく、保護者、地域の関係者への広報を推進した。



【実行委員会での話し合いの様子】

6 今後の展開(継続・発展させていくために)

- ネットいじめ等のインターネット上のトラブルは、年々、増加している。今後も社会の情勢や児童生徒の実態に応じた課題を設定していくことが重要である。
- サミットで採択した取組を実効性のあるものにするためには、各学校における積極的な取組を進めることが大切である。「いじめ撲滅宣言」を児童生徒及び保護者に周知して取組を定着させる。
- 本事業を推進していくためには、学校・保護者・地域が一体となって進めていくことが効果的である。北九州市PTA協議会等の関係機関との連携を図りながら、継続・発展させていく。

7 その他

(参観者からの感想)

- 子どもたちの一生懸命な姿に感心した。大人が決めたことをするのではなく、実行委員で方向性を確認し、各学校で話し合ってもらい、それぞれの意見を持ち寄って考えていた。子どもたちが主体的に取り組んでいたところがよかった。
- 子どもたちから相談されるような、信頼される大人にならないといけないなと感じた。
- 文字だけでは、思いが伝わらない。直接会って話をすると聞いていた小学生がすばらしいと思った。

8 参考資料等

- ・ 北九州市教育委員会ホームページ
(<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kyouiku>)